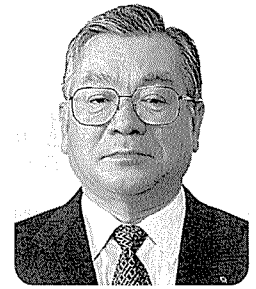


1999年の年頭にあたって

福 本 善 一*



会員の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

平成11年(1999年)の年頭にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。わがPC業界は、この数年、総事業額5000億円台を確保し、関係各位のご努力が実りつつあることを示してまいりました。

しかし、この時期、PC業界のみならず土木業界全体に大きな影響を与えるさまざまな動きがありました。とりわけ、公共投資額の大幅な見直しが土木業界でのコスト縮減として強く要求されるようになりました。PC業界といたしましても避けられるべきものではありません。

コスト縮減の基本は、今までの考え方を改良し、これまでにない新技術、新工法を開発、普及させることであり、すでにプレストレスト・コンクリート建設業協会では「PCコンポ橋」、「高強度コンクリート橋」、「中間横桁を省略・減少したPCTけた橋」を提案し、建設省土木研究所と共同研究を実施しております。「PCコンポ橋」、「高強度コンクリート橋」は試験フィールド工事およびパイロット工事としてすでに施工されております。

これらは、今までの発想を改良したものでありますが、今、コスト縮減策として取り組もうとしている課題は在来のPC工法(技術)をさらに大きく改良しようとするものであります。

すでに実施に移されているもの、現在研究中のものを思いつくままに挙げてみますと次のようなものがあり、今後とも研究を進めて実用化を目指してほしいものであります。

① 構造改善によるもの

……外ケーブル、合成・複合構造、プレキャストPC床版、PRC構造、中間横桁の省略・減少

② 材料開発によるもの

……高強度、高性能コンクリート
高品質、高耐久性材料

③ 施工方法の改善によるもの

……スパンバイスパン架設、埋設型枠、
現場工場による集中生産

④ 現場工期の短縮、環境改善によるもの

……セグメント、プレキャスト床版

以上、取組み中のものについての概略を述べさせていただきましたが、次に、施工に関する課題について感じることを述べたいと思います。

上記に述べたコスト縮減を目指す各種方策は、すでに工事の中で実施中のものもあります。これから始められるにあたって重要なことは、当然のことながら設計どおりに構造物を構築することであり、施工計画、仮設備、工程など十分な検討が必要となります。今回のように在来の技術をいちだんと改良した施工については新しい工夫、考案がなされるものと思います。この際、機器材の台数、性能など最適なものを選択し、しかも工事の総機器材損料を最少に抑えることがコスト縮減の最大の課題と考えております。

以上、申しあげました諸条件を満足し、高品質の構造物を無事故で完成させることが最も重要であります。今後もプレストレストコンクリートの利点を活かし、良質な社会資本整備に貢献できることを望んでおります。

* Zen-ichi FUKUMOTO : (社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 会長、オリエンタル建設(株) 取締役会長